

■鑑賞 歩きはじめること

生き続ける、生き続けない、それがむずかしいところだ。
残忍な運命の矢だまを
心の中でじっと耐えるのと、武器を取って
海なす苦難に敢然と立ち向ってそれらを葬り去るのと、
いずれが貴いことなのか。死ぬことは眠ること―
それだけの話だ。眠ればたぶん、人間が受けねばならぬ
胸のうずき、肉体につきまとう数知れぬ苦痛を
終らせることができる。それこそは心の底から願わしい
大団円だ。死ぬ、つまり眠る！
眠る、ひよっとすると夢を見る、か。ああ、ここで引っかかる。
その死という眠りの中で人の世のこのわずらわしさから
やっと脱け出したときどんな夢が訪れることか、
ここでためらってしまう。―そう思うからなのだ、
この無残な人生を長々と生き続けるのは。
でなければ誰がこの世の痛い鞭やあざけりを、
権力者の横暴や高慢面のさげすみを、
かなわぬ恋のつらいあえぎ、だらしなく延びる訴訟沙汰、
小役人どもの横柄さ、高貴な心が
じっと耐えつつ下司下郎から受ける侮辱、
もし短剣の一突きでわれとわが身をそれらから解き放せるものなら
誰がこらえたりするものか。

（『ハムレット』木下順二訳）

こほりたるインクの 壇を
火に翳し
涙ながれぬともしびの下

『一握の砂』 石川啄木

春浅き大堰の水に漕ぎ出だし三人称にて未来を語る

『水惑星』 栗木京子

サバンの象のうんこよ聞いてくれ だるいせないこわいさみしい
『シンジケート』 穂村弘

■宿題

歌二首… 今までに経験した苦しみや喜びにかかわる歌

提出… sakai@mtl.t.u-tokyo.ac.jp

メ切… 五月五日